

2. 地勢と歴史

地形の特徴、自然公園や土地利用、歴史文化など、景観の土台となる情報を示します。

2. 地勢と歴史

(1) 地形の特徴や自然公園、土地利用

■ 地形の特徴

本町は、名古屋から南部に伸びる知多半島の先端部と沖合に浮かぶ篠島・日間賀島からなる、三方を海に囲まれた自然豊かなまちです。町全体に小高い丘陵が広がり、平地は沿岸部の一部分に限られ、市街地は港の周囲の平坦地を中心に発展しました。

概ね 100m級の丘陵が町域の南側海岸沿いに連なり、知多半島の最高峰は、内海と山海の間にある海拔 128.3m の高峰山です。これらの丘陵は半島南側の海岸線に迫っており、海沿いは急崖な地形を示しています。

一方、比較的大きな谷筋は平地部を形成し、内海や山海、豊浜等、平坦な地形の市街地が谷筋に沿って広がっています。

羽豆岬の沖合の篠島と日間賀島は島全体が丘陵地形を示しています。

地形断面図を見ると、伊勢湾側の丘陵において、三河湾側よりも標高が高くなっています(次ページ ①-①断面図・②-②断面)。

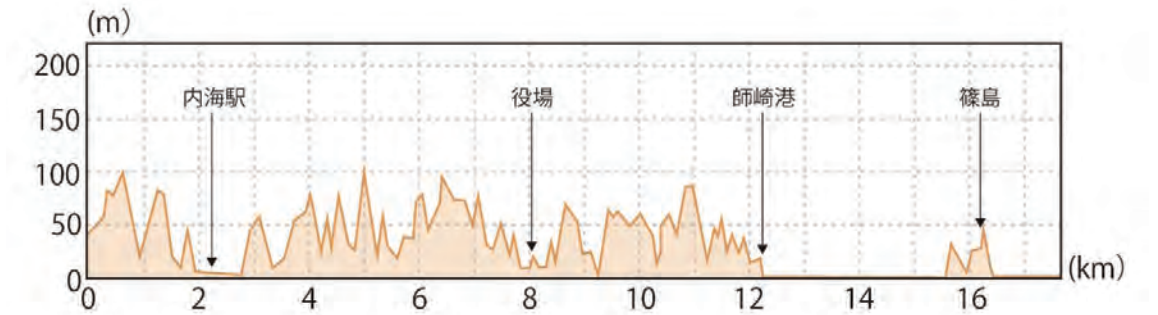
■ 自然公園

本町は、変化に富んだ海岸線をもつ、自然に恵まれた豊かな景観をもつまちです。こうした地域を保護し、後世に引き継ぐとともに、誰もが野外レクリエーションを楽しみ、動植物や地質などの自然を学ぶことができるように指定したのが自然公園です。

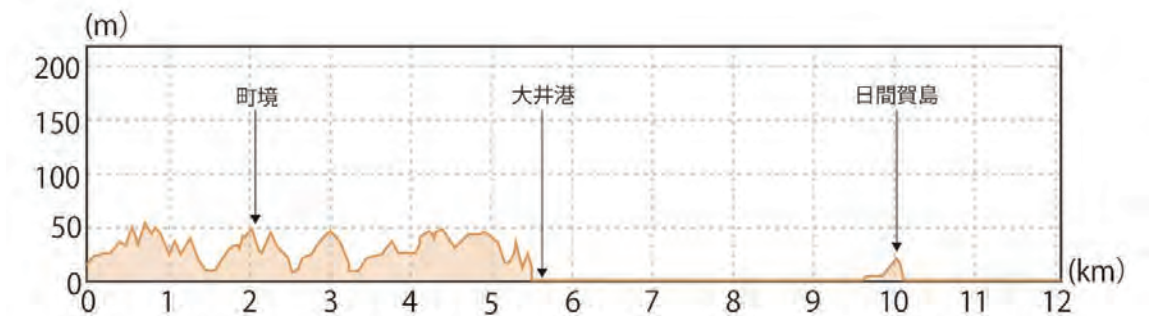
町域の大半が「三河湾国定公園」(1958年(昭和33年)指定)と「南知多県立自然公園」(1968年(昭和43年)指定)となっています。三河湾国定公園は、県内にある11の自然公園のうち最も歴史が古い公園です。

自然公園は、市街化が進行している地域を除き、山林や農地、海岸付近等が指定されています。地域の自然環境を守る観点から、特別地域(特別保護地区、第1種特別地域、第2種特別地域、第3種特別地域)、普通地域に区分し、地域ごとに規制を受ける行為を定めています。

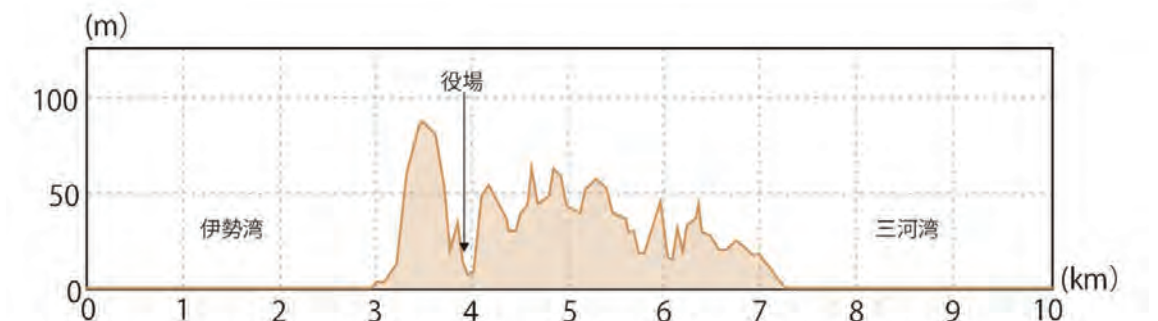
①-①断面



②-②断面

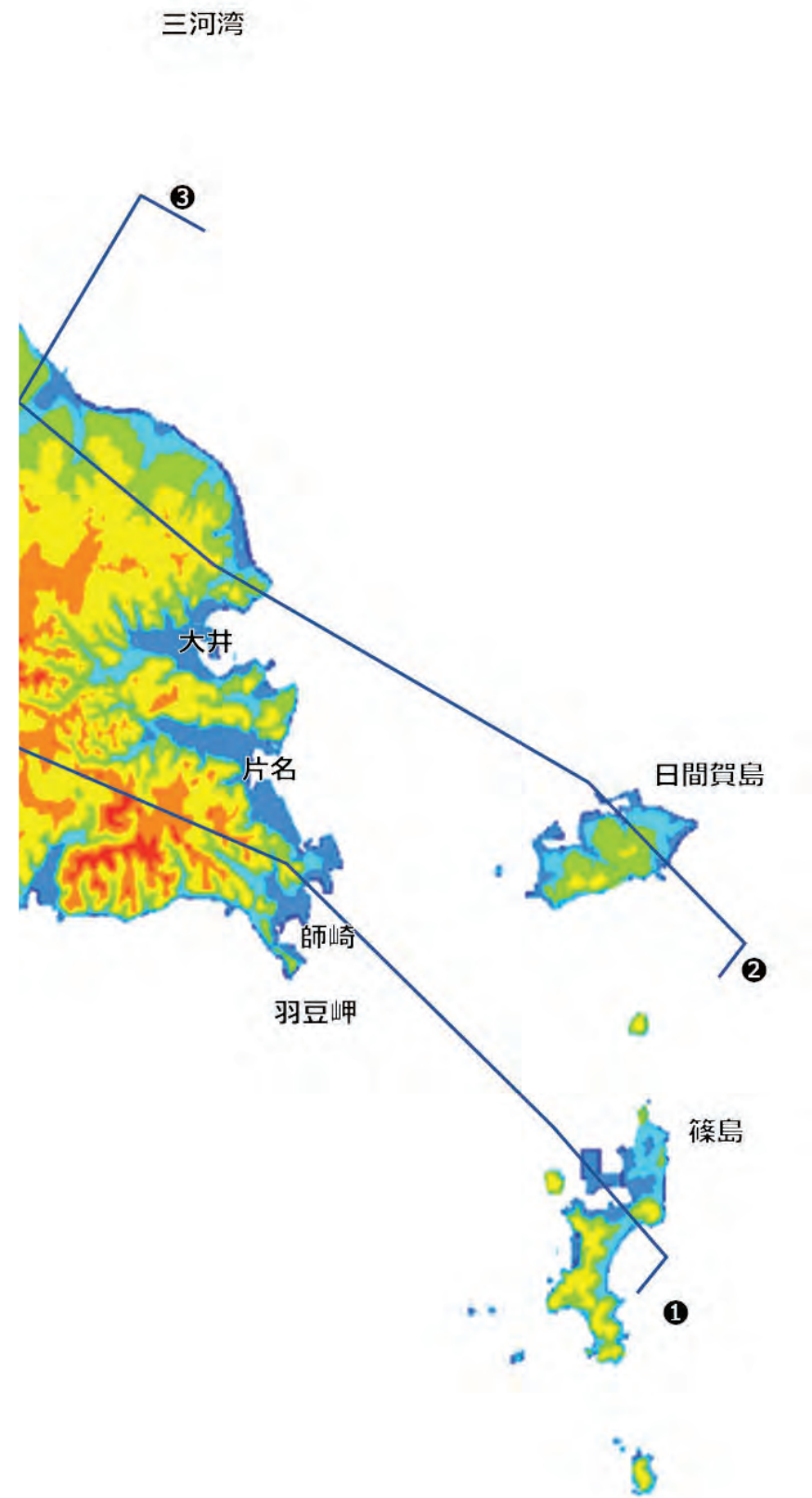
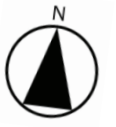
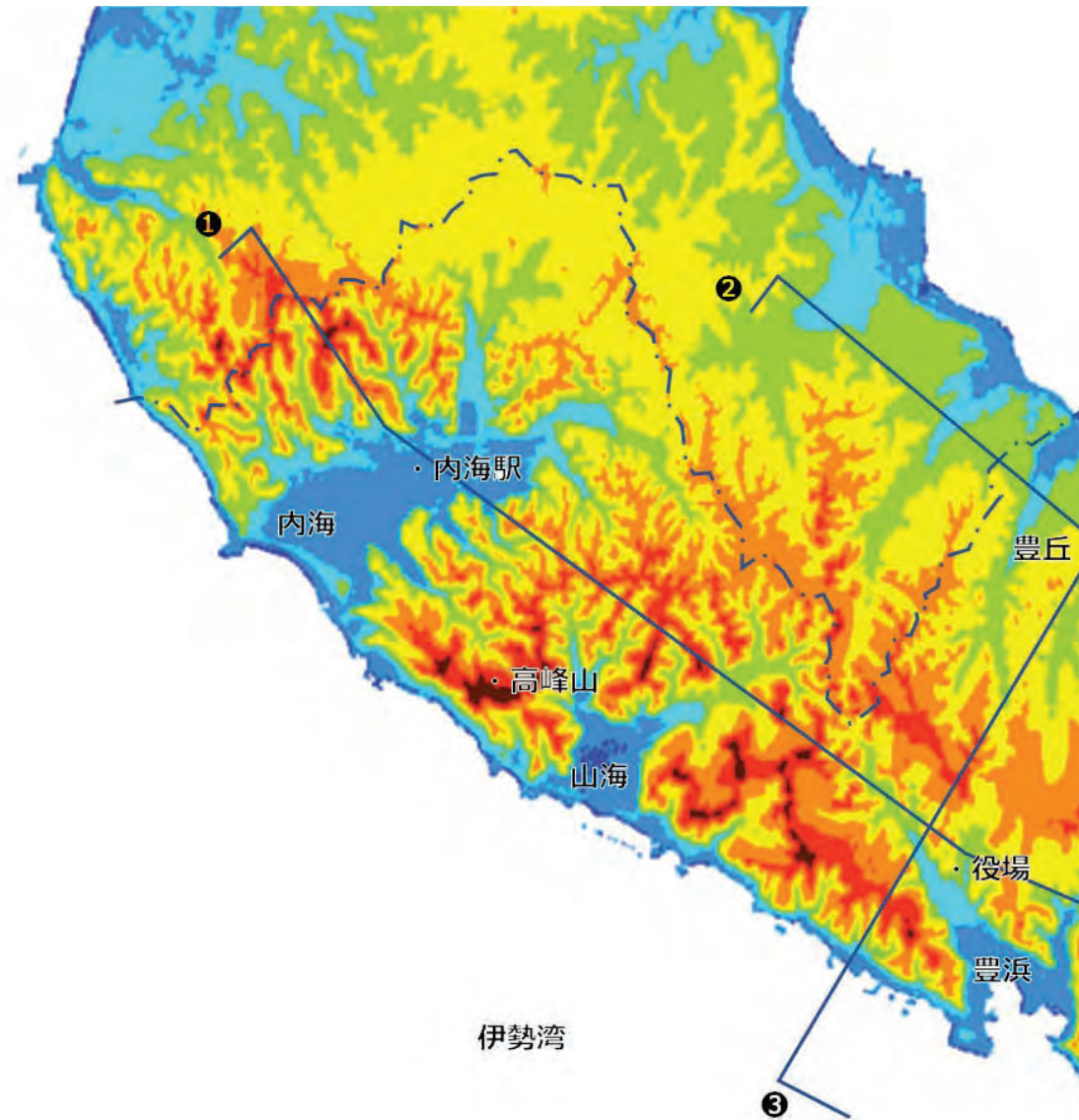


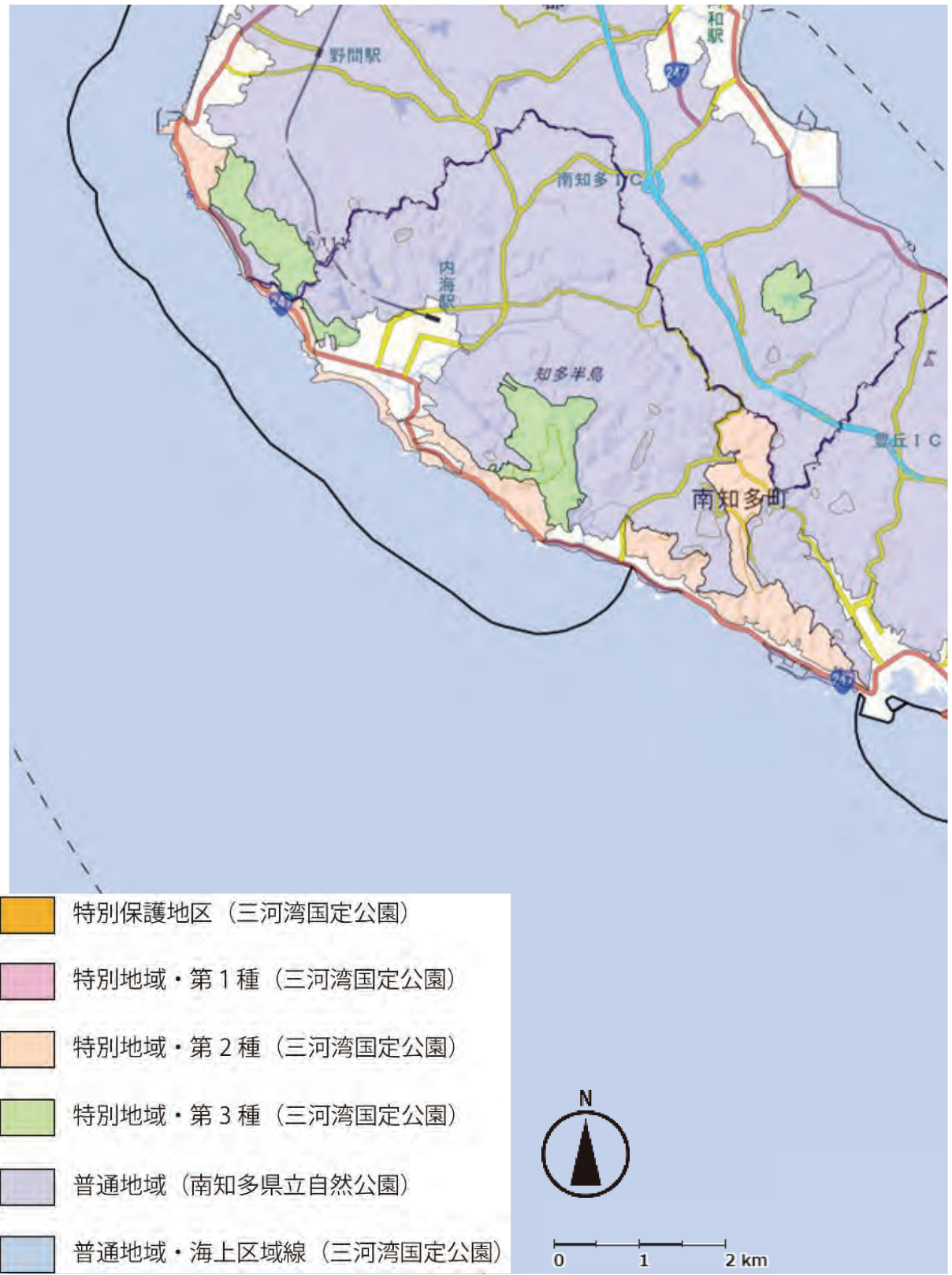
③-③断面



地形断面図(地理院地図/GSI Mapsより作図)

※断面の位置は、次ページの地形標高図を参照





南知多県立自然公園地域区分図
 (愛知県自然公園情報マップ/マップあいちより作図)



■土地利用等の特徴

〈半島部の特徴〉

伊勢湾、三河湾の海岸線に沿ってつながるように、市街地が形成されています。比較的広い谷筋に沿って伸びる水田と、三河湾岸に面した低地部に広がる水田があります。丘陵の頂部付近に畑など農地が多く点在しています。平坦地が少なく、起伏が多いため、水田率は低いですが、丘陵上まで米作りが行われています。畑は山のかなり上まで開かれています。畑作地域としてまとまっているところはほとんどありません。

〈島しょの特徴〉

島の大部分は市街化が進み、密集度が高い住宅地となっています。島の一部に緑地が残り、海に面する部分は急崖な地形となっています。篠島・日間賀島には水田は見られません。

篠島



まちなみコラム

漁師にとっての海

風と波によって、海面は常に揺れ動いています。係留されている船はゆらめき、旗は風に煽られ、魚を狙う鳥が空を舞っています。「海が好き。大漁だとうれしい、自分の力だってことだから」と語る漁師さんにとって、海は、自分の漁の腕を磨きながら「真剣勝負」する場なのです。

伊勢神宮とのつながり

篠島周辺の海で取れた真鯛を調製して「御幣鯛」が作られ、伊勢神宮へ奉納されています。この御幣鯛を作る干鯛調製所は、島内にありながら伊勢神宮の所管地で、神様へのお供え物を作る神聖な場所です。今から八百年以上前から続いている、伝統行事です。

また、島にある神明神社では、伊勢神宮のご遷宮の折に下賜される御古材を使い、20年ごとに社の造営・遷宮が行われています。

海を挟んだ伊勢神宮と篠島は、いまでも深いつながりがあるのです。

片名

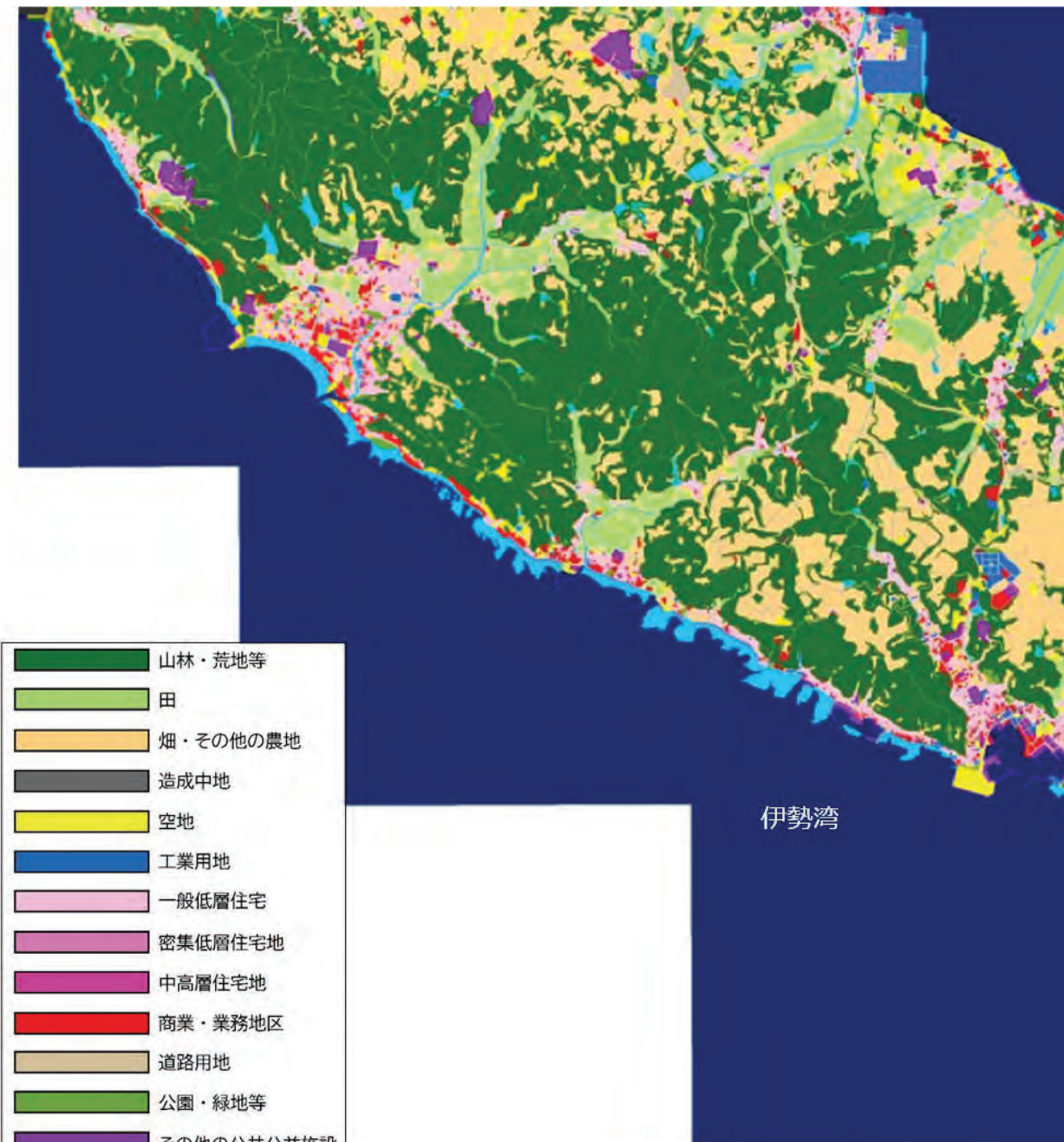


まちなみコラム

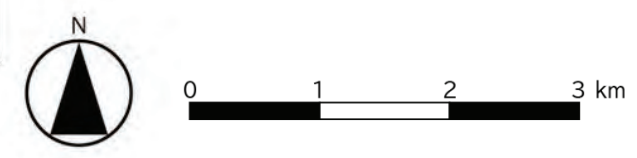
山を背後に抱いた遙拝空間

神明社は式内社と呼ばれる格式の高い神社です。緑の山を背後に抱いた社殿へは、二つの鳥居をくぐってアプローチします。山、社殿、参道、鳥居によって遙拝空間が構成され、集落の中の聖なる風景が生み出されています。

神明社の参道と二つの鳥居



- 山林・荒地等
- 田
- 畑・その他の農地
- 造成中地
- 空地
- 工業用地
- 一般低層住宅
- 密集低層住宅地
- 中高層住宅地
- 商業・業務地区
- 道路用地
- 公園・緑地等
- その他の公共公益施設
- 河川・湖沼等
- その他
- 海



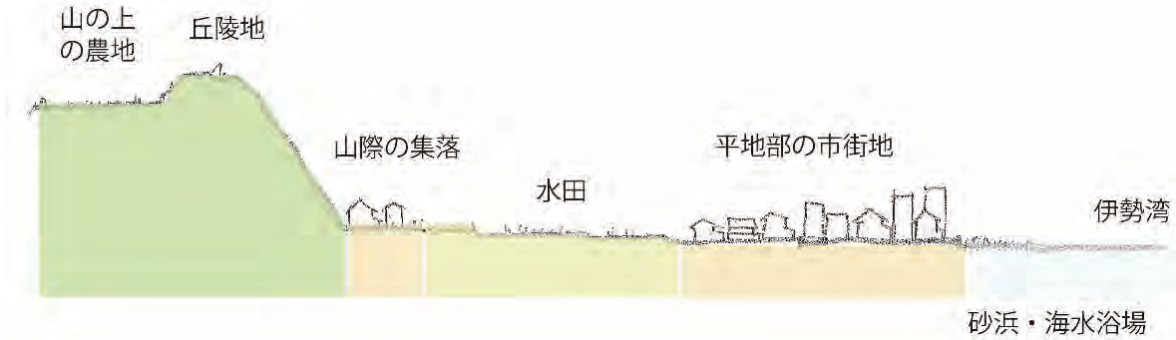
土地利用図(地理院地図/GSI Maps より作図)



〈地形と土地利用の特徴〉

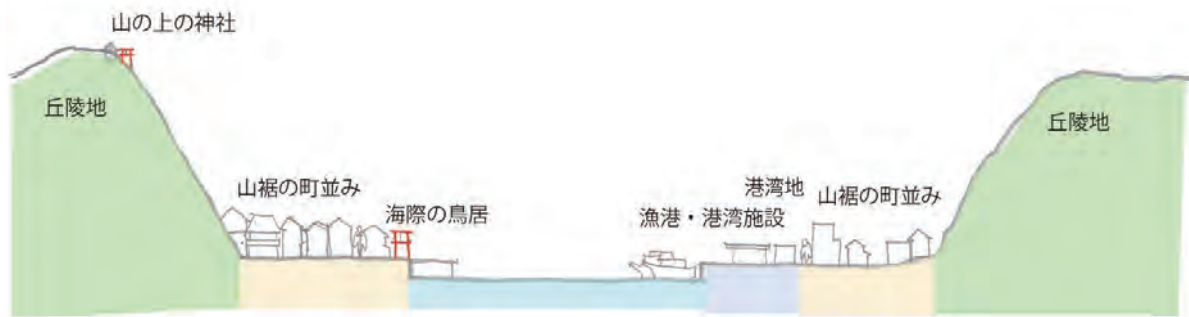
A 半島部の市街地や水田と丘陵（内海・山海付近）

- ・半島部の内陸方向に入り込むような谷筋に広がるある平地があるまちです。
- ・海岸近くの平地部に市街地が形成され、さらに内陸側に入ると水田や山際の集落が点在し、集落の背後に丘陵が間近に見えます。



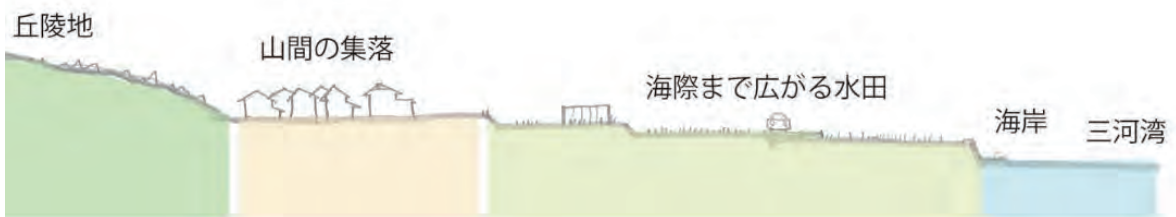
B 半島部の丘陵と港湾付近の市街地（豊浜・師崎・片名・大井付近）

- ・半島部の海辺で湾内に漁港や港湾施設があるまちです。
- ・海岸近くにまちなみが見られ、その背後に急峻な丘陵地が間近に見えます。



C 半島部の山間集落と海辺付近に広がる水田（豊丘付近）

- ・半島部の三河湾側、なだらかな傾斜のなかに、広がる平地のあるまちです。
- ・低く連なる丘陵の山裾に集落が見られ、海岸線まで水田が広がっています。



断面図は、地形と土地利用の特徴をイラスト化したもので、地形や建物の縮尺や縦横比は実際のものとは異なります。

D 島しょの丘陵と斜面地から海際まで続く密集したまちなみ（篠島）

- ・島南部の丘陵からつながるようにあるまち。港近くから斜面地に集積したまちなみが見られます。



E 島しょの丘の上のまちなみ（日間賀島）

- ・広がりある丘の上にあるまち。港近くに集積したまちなみが見られます。



まちなみ断面図は、地形と土地利用の特徴をイラスト化したもので、地形や建物の縮尺や縦横比は実際のものとは異なります。

(2) 歴史文化

■集落の形成過程

<明治期まで>

縄文時代の遺跡が多数確認されていることから、古くから人々が生活していたことがわかっており、天然の入り江を利用した良港に恵まれ漁業が発達し、半島や島の沿岸部に漁村が分布しています。

本町域は二つの島を含み、地形立地の条件に恵まれ、古来より漁業を生業とする村がありました。沿岸をもたない内陸部の村は農業が基幹であり、いわゆる農村でしたが、畑作や山林を使った肥料や燃料生産もしていたといえます。

江戸時代には、内海を中心に江戸と大坂を結ぶ東西海上交通の要衝の地として多くの船主が千石船を有して繁栄しました。

恵まれた自然環境のなかで、現在も豊富な水揚げ量を誇る漁業や、温暖な気候を活かした野菜栽培、果樹栽培、花卉栽培などの農業の営みを発展させてきました。

<明治期>

半島では、伊勢湾に面して、内海村・山海村・豊濱村の村落、最南端に師崎の村落、三河湾に面して、大井村・豊丘村の村落があります。丘陵地の山あいには豊丘村に属する山田や乙方、山海村に属する岩屋などの村落があります。

沿岸部は内陸部と比較してまとまった規模の村落であり、島においても、一定の集積のある村落が形成されています。湾入地形の湾奥に形成されている村落が、豊濱村・大井村・師崎村であり、集落のすぐ背後にある丘陵の急斜面と海岸の間の狭い平地を巧みに利用して、建物が密集しています。内海村は、丘陵から開けた比較的広い平地に塊状の集落が形成されています。岩屋や初神の村落は、狭い山あいには街路村状に形成されています。伊勢湾沿いの村落の後背地や、三河湾沿いに田が見られるが、広い田は見られず、内陸部の多くは山林で覆われています。

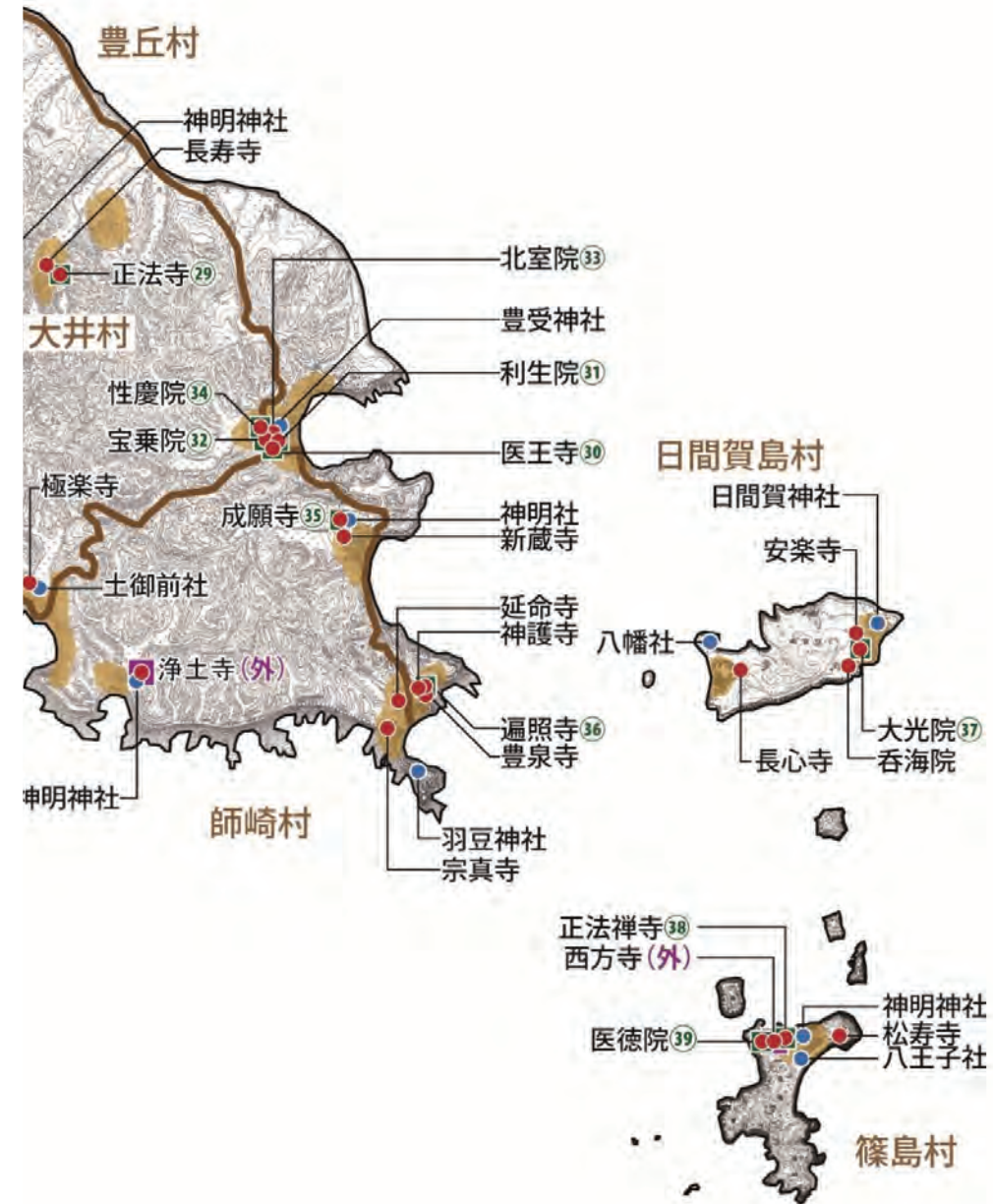
街道は半島の外周部を通っています。神社や寺院が各村落に位置し、神社は海岸沿いに位置するものが見られます。寺院は、人口に比して多いと言われていています。知多四国八十八箇所の寺院のうち、町内には19の札所と、番外編の3か所があります。





明治期の村落と街道及び寺社の分布

出典
 地形図 : 明治23年大日本帝國陸地測量部測量地図(国土地理院)をベースに作成
 街道 : 町資料(平成3年度愛知県歴史の道調査報告書Ⅶ-常滑街道・師崎街道-)を参照
 寺院・神社 : 南知多町誌(平成3年3月発行)に掲載された神社・寺院を掲載
 知多四国八十八箇所 : 「愛知県の知多半島でお遍路しませんか?」(知多四国霊場会事務局発行)を参照



<大正期>～<現在>

沿岸部の村落では、後背地の農地を切り開く形で明治期の村落が拡大するとともに、海岸沿いにも拡大が進んでいます。

明治初期に、全国的に海水浴の医学的な効果が注目され、身体に良いと言われるようになったことから、潮湯治（海水浴）客が訪れるようになりました。療養や保養目的から始まりましたが、内海・師崎・篠島・日間賀島を中心に料理旅館が建てられ、観光的施設が建てられ始めました。大正時代になると、別荘も急速に増え、交通機関の発達によって観光客の数も増加しました。

景勝地は、三河湾国定公園（昭和 33 年指定）と南知多県立自然公園（昭和 43 年指定）に指定され、内海や篠島、日間賀島には、観光料理旅館が続々と新築されるようになり、本町の海水浴場には、現在も毎年多くの海水浴客が訪れにぎわっています。

昭和 36 年（1961）には愛知用水が完成し、昭和 51 年（1976）から平成 6 年（1994）にかけて、国営農地開発事業が進められ、山林や原野を切り開き 700ha を超える新しい農地がつくられるなど、農業の基盤整備も進みました。

島もそれぞれの集落規模が拡大しています。篠島では昭和 49 年（1974）より埋め立て工事が実施され、島の範囲が拡大しました。

旧街道が発達し、隣接都市間を連絡する現在の国道 247 号となっています。昭和 40 年代には知多半島を縦貫する知多半島道路及び南知多道路が開通し、昭和 55 年（1980）には内海駅までの名鉄知多新線が開通することにより、本町の交通の骨格軸が形成されました。





■歴史的建造物

本町における建造物の指定文化財としては、内海に廻船主の家屋である旧内田家住宅とその分家があり、廻船業で栄えた歴史を今に伝えています。

〈尾州廻船内海船主 内田佐七家（旧内田家住宅）〉

内海を代表する有力船主であった2代目内田佐七による建造物で、明治2年（1869）に竣工しました。太平洋側に現存する廻船主の家屋の中では大規模なものです。平成29年7月に国の重要文化財建造物となりました。



〈旧内田佐平二家住宅〉

内田佐七家の分家の家屋です。明治5年（1872）頃に建てられたとされています。近世末期から明治期にかけて廻船業を営んだ船主の屋敷構えを今日に伝える貴重な建物群です。



〈梅原半兵衛家住宅〉

梅原邸は、醸造業を営んだ梅原半兵衛の家で、明治時代前期頃に建築されました。哲学者・梅原猛先生は、8代目半兵衛の弟半二の長男で、幼少のとき半兵衛の養子となって、青少年期までこの家で過ごされました。平成元年に梅原猛先生から南知多町に寄贈され、平成2～3年にかけて改修工事が行われました。



出典：南知多町誌 資料編六

■祭と伝統行事

本町には、古くからの慣わしとして今も多くの祭りが伝わっています。

春は、山車を曳いて五穀豊穡を願い、夏には船団を組んで、海の安全や疫病などの被害に遭わないことを祈ります。秋には鎮守の森で豊作や豊漁に感謝を捧げ、厳しい冬には寒さに耐えながら魂を充実させます。

四季折々の祭りには、この土地で生きていくうえでの、様々な人々の思いが込められています。この思いと伝統は、今でも受け継がれています。

〈四季折々の祭礼〉

町内の各地区において、伝統的な祭礼が執り行われています。

季節	祭礼	開催地域	拠点となる社寺等
春	① 内海の春まつり	内海地区	高宮神社・秋葉神社・神明社・入見神社
夏	② 篠島の祇園まつり	篠島地区	八王子社
夏	③ 野島まつり	篠島地区	野島神社
夏	④ 日間賀島の龍宮まつり	日間賀島地区	八幡神社
夏	⑤ 豊浜の鯛まつり	豊浜地区	中洲神社・津島神社
夏	⑥ 大井の夏まつり	大井地区	豊受神社・津島神社
夏	⑦ 豊浜の須佐おどり	豊浜地区	—
夏	⑧ 師崎の盆踊り	師崎地区	—
秋	⑨ 内海・西端の神楽船まつり	内海地区	山神社
秋	⑩ 師崎・羽豆神社の大名行列	師崎地区	羽豆神社
秋	⑪ 篠島の御幣鯛奉納まつり	篠島地区	神明神社
秋	⑫ 山海・西村のまつり	山海地区	八幡社
冬	⑬ 篠島の大名行列	篠島地区	八王子社
冬	⑭ 豊丘・熊野神社の歩射・粥占	豊丘地区	熊野神社
冬	⑮ 大井の二十八社巡り	大井地区	豊受神社
冬	⑯ 師崎の左義長まつり	師崎地区	神護寺
冬	⑰ 山海・岩屋寺の初午	山海地区	岩屋寺

出典：「ハレの日々 南知多町十七の祭礼」（平成27年3月、南知多町文化遺産保存活用実行委員会）

〈季節ごとの祭礼概要〉

春の祭礼

① 内海の春まつり

日時：4月第1日曜日

地域：内海地区

場所：内海一帯（高宮神社、秋葉神社、神明社、入見神社）

概要：

五穀豊穡、村中安全を願い内海各地区で行なわれる春祭り。山車をメインとする祭礼で、神輿や山車の練り歩きとからくりの奉納など、各地区それぞれで個性豊かなお祭りが行われる。



夏の祭礼

② 篠島の祇園まつり

日時：7月第2土曜日

地域：篠島地区

場所：篠島（八王子社）

概要：

島の子供たちが、神輿などを担いで島中を練り歩く。八王子社の前に広がる砂浜では、大量の餅を積んだ木曳船の到着を待って、海の安全と大漁を祈願する祈禱が行われる。



③ 野島まつり

日時：7月第2日曜日

地域：篠島地区

場所：篠島（野島神社）

概要：

約70隻の大漁の旗を掲げた漁船が篠島から野島に繰り出す船団パレードが行われ、船の上から野島神社に向かって海上安全と大漁を祈願する。夜は花火大会が行われる。



④ 日間賀島の龍宮まつり

日時：7月第2土曜日

地域：日間賀島地区

場所：日間賀島サンセットビーチ周辺（八幡神社）

概要：

「ほうろく祭り」とも呼ばれ海上安全と豊漁を祈願する海の供養祭で約250年の歴史がある。漁船を提灯で飾りたてた「やかた船」から、素焼きのほうろく皿に火をつけて海に流す幻想的な祭り。夜には花火大会が開催される。



⑤ 豊浜の鯛まつり

日時：7月中・下旬の土、日曜日

地域：豊浜地区

場所：豊浜漁港界限（中洲神社、津島神社）

概要：

海の安全と大漁を祈願するため2日間に渡って開催される南知多が天下に誇る海の奇祭。竹や木の骨格に白木綿で覆い装飾した鯛みこしで海や街中を練り回る。夜には、奉納の花火大会が開催される。



⑥ 大井の夏まつり

日時：7月第2土、日曜日

地域：大井地区

場所：大井地区一帯（豊受神社、津島神社）

概要：

村社豊受神社の神様が、一年に一度、津島神社の神様（オミヨシさん）の魂を鎮め、慰める祭り。昼の山車の曳き廻しのほか、夜には幻想的な提灯車が練り歩く。



⑦ 豊浜の須佐おどり

日時：8月13～16日

地域：豊浜地区

場所：魚広場近くの広場（東部地区）

豊浜緑地入口（半月・中村・鳥居地区）

概要：

元禄時代から伝わる民俗芸能で、毎年、お盆の時期に行われる。太鼓打ちと音頭だしだけで踊る古典的な伝統芸能で南知多町の無形民俗文化財でもある。



⑧ 師崎の盆踊り

日時：8月14日

地域：師崎地区

場所：みさき小学校グラウンド

概要：

約500年の歴史を持つ民族芸能で、師崎を代表する盆踊り。先祖代々から伝承された唄に合わせて、現在まで受け継がれた独自の所作で踊り続けた盆踊り。



秋の祭礼

⑨ 内海・西端の神楽船まつり

日時：旧暦8月17日頃の日曜日

地域：内海地区

場所：内海・西端区（内海川河口付近、山神社）

概要：

海運業の発展と航海の安全を祈願する江戸時代から続く伝統的な川祭り。108個の提灯を灯した船が内海川の内海橋と千歳橋の間約500mを往来し、川面に揺れる提灯の灯りが幻想的な祭り。



⑩ 師崎・羽豆神社の大名行列

日時：10月の第2土、日曜日

地域：師崎地区

場所：羽豆神社～御旅所（鳥居前）

概要：

大漁祈願、無病息災を願って毎年10月中旬に行われ、室町中期から伝わる神幸祭。白張姿の男衆らに担がれた神輿と各地区の山車による練り歩きが行われる。



⑪ 篠島の御幣鯛奉納まつり

日時：10月12日

地域：篠島

場所：篠島（神明神社）～神社港～伊勢神宮

概要：

伊勢神宮の祭礼に干鯛を奉納する800年以上前から続く伝統行事。篠島中手島の御贄干鯛調製所から運び出された干鯛を「太一御用」の旗を掲げた奉納船団6隻が伊勢神宮に向け出航する。



⑫ 山海・西村のまつり

日時：10月第3日曜日

地域：山海地区

場所：南知多町山海・西村地区一帯（八幡社）

概要：

五穀豊穰を祈願する西村区村社の八幡社の祭礼で、南知多一と言われる彫刻を誇る山車（南知多町指定文化財）が地域の老若男女により曳き廻される。山車の前柱に設けられた「手長足長」は全国的に珍しい。



冬の祭礼

⑬ 篠島の大名行列

日時：1月3・4日

地域：篠島

場所：篠島海水浴場（八王子社）

概要：

篠島の正月を飾る祭礼で、全国的にも珍しい神渡り神事。八王子社に祀られている男性神「オジンジキサマ」が、神明神社に祀られている女性神の所へ「オワタリ」をして、神明神社で一夜を過ごし、八王子社へと帰る神事が行われる。



⑭ 豊丘・熊野神社の歩射・粥占

日時：歩射：1月4日、粥占：1月14日

地域：豊丘地区

場所：熊野神社

概要：

豊丘地区に鎮座する熊野神社で年初に行われる年占的な性格を持った祭礼。「歩射」はその年の吉凶や農作物の吉凶を占い、「粥占」はその年の農作物の豊凶を占い五穀豊穰と無病息災を願う。



⑮ 大井の二十八社巡り

日時：1月第2日曜日

地域：大井地区

場所：大井地区（豊受神社）

概要：

弘法大師ゆかりの遺跡などを歩いてめぐる祭礼。約200年前より「二十八社巡り」がはじまり、地元の若者たちが五穀豊穰、大漁満足、病魔退散などを祈願して年の初めに歩き始めたのが起源とされる。



⑯ 師崎の左義長まつり

日時：1月第4日曜日

地域：師崎地区

場所：師崎海岸一帯（神護寺）

概要：

師崎地区の5か所で、大漁・商売繁盛・無病息災などを祈願するお祭り。裸姿の若衆が大漁祈願をかけた大のぼりを立て、正月飾りやお礼などと一緒に焼き尽くす姿が迫力満点。



⑰ 山海・岩屋寺の初午

日時：旧暦2月の初午の日

地域：山海地区

場所：岩屋寺

概要：

一年で最も運気が高まる日である二月最初の「午の日」に、岩屋寺で厄年の男女の厄除祈願が行われる。篠島や日間賀島などでは厄年の男女が地域ぐるみで祈願にやってくることもある。



出典：「ハレの日々 南知多町十七の祭礼」（平成27年3月、南知多町文化遺産保存活用実行委員会）

写真の出典：⑤、⑨は、総務課資料（令和元年撮影）

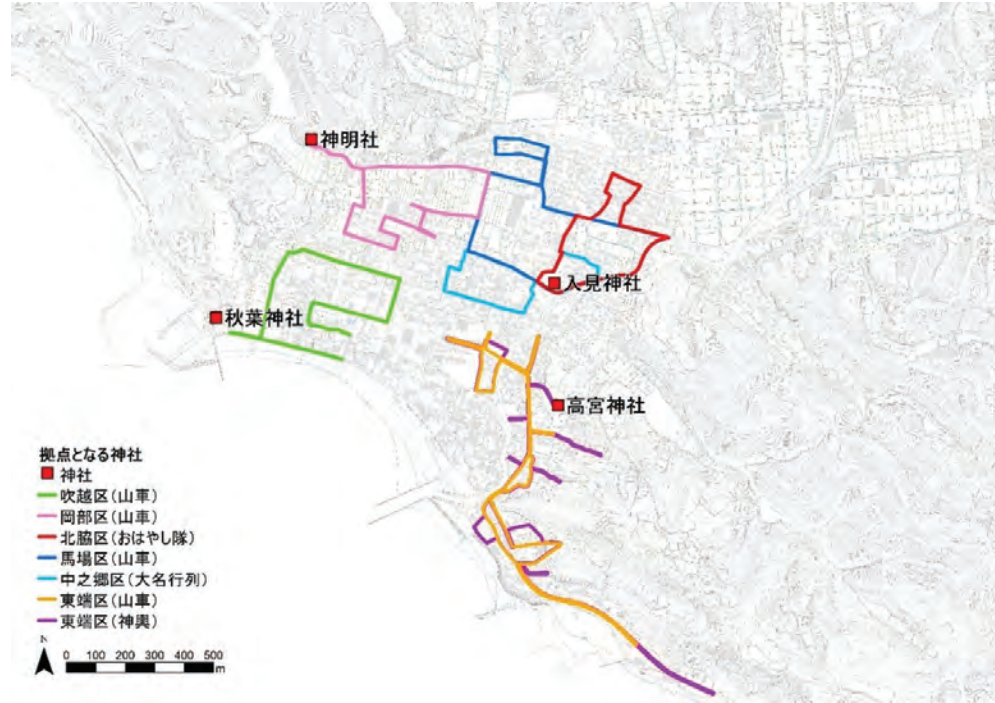
上記以外は、「ハレの日々 南知多町十七の祭礼」（平成26年度撮影）

〈祭礼の空間的な位置〉

山車や神輿等が、練り歩き、曳き廻される祭礼があります。山車や神輿等のルートにあたる空間は、祭礼の舞台として、景観上重要な意味を持ちます。

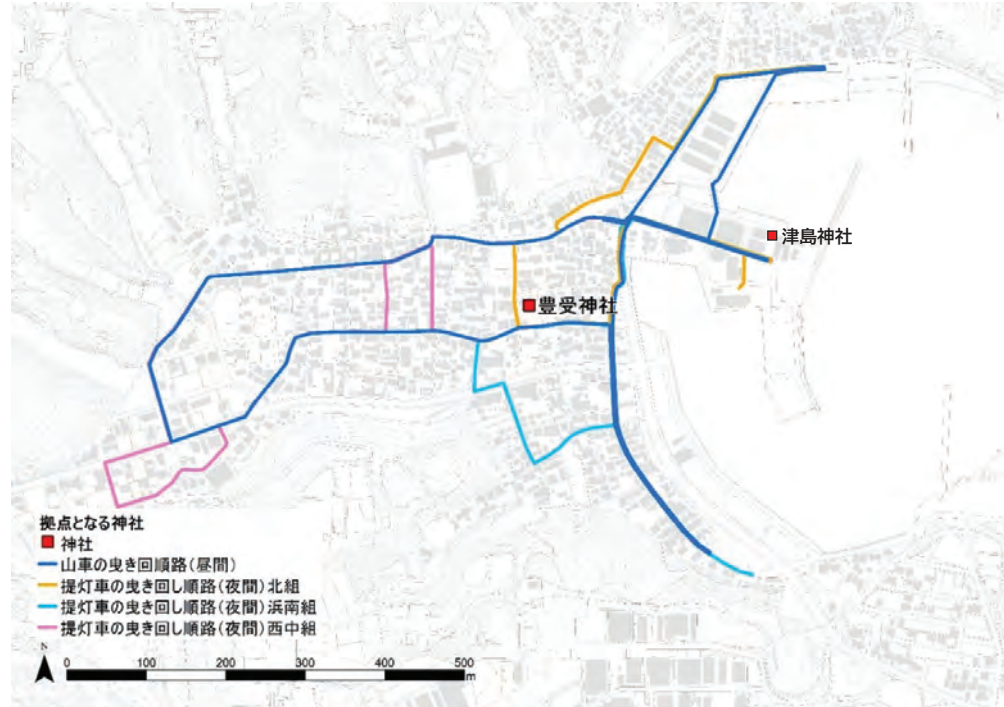
・「内海の春まつり」の山車や神輿の練り歩き・曳き廻しルート

ルートは各組関係者のヒアリングによる



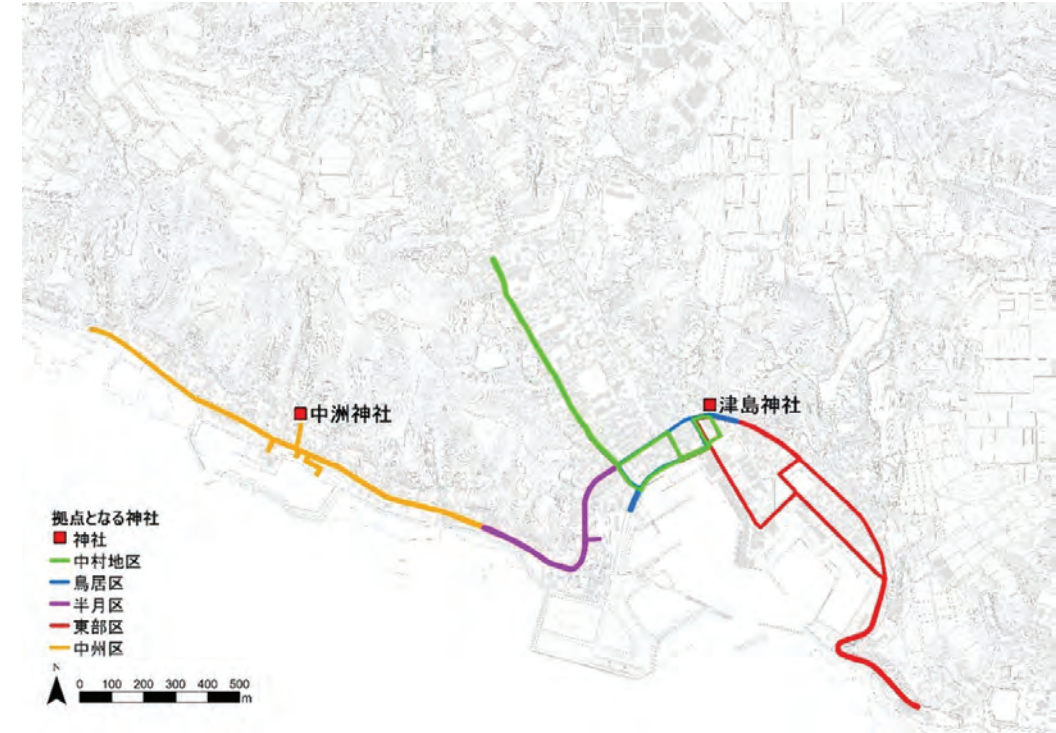
・「大井の夏まつり」の山車や提灯車の練り歩き・曳き廻しルート

ルートは令和5年度夏祭り運営資料による



・「豊浜の鯛まつり」の鯛みこしの練り歩き・曳き廻しルート

ルートは鯛まつりスケジュール&マップによる



・「師崎・羽豆神社の大名行列」の山車や神輿の練り歩き・曳き廻しルート

ルートは令和元年 師崎祭礼行事日程資料による

